

# 学 校 だ よ り

京丹後市立大宮中学校 平成28年3月14日 第14号  
<http://www.kyoto-be.jp/oomiya-jhs/> e-mail oomiya@kyoto-be.ne.jp

光陰矢のごとし

## 卒業おめでとう

本日、大宮中学校から巣立つ121名のみなさん、御卒業おめでとうございます。保護者の皆様、お子様の御卒業おめでとうございます。

本日、授与いたしました卒業証書は、みなさん一人一人が中学校の全課程を、自分らしく輝き、頑張り抜いたという大切な証です。ちりめん生地の卒業証書に体育祭や合唱祭、授業、部活動での一人一人の表情を思い浮かべながら名前を書きました。みなさんの思い出の詰まった卒業証書の重みをしっかり受け止めてほしいと思います。

光陰矢のごとし・・・時が経つのは本当に早いものです。まさに学び舎を巣立ちゆくこの時、卒業生のみなさんの胸には、どのような思い出が駆け巡っているのでしょうか。一年生から様々なことにチャレンジし、深まった絆と友情は、多くの人とのかかわりを通して学年を重ねるたびに強くなりました。思い出の卒業アルバムには、困難や課題を乗り越えたみなさんの笑顔がいっぱいに溢れています。すがすがしく素敵なアルバムです。

思い出してみてください。みなさんは、春に出会い、夏に汗し、秋に憂い、冬の厳しさに耐えて、この大宮中学校で心と体を鍛え、多くの知識を学びました。努力しているからこそ、多くの壁にぶつかり、悩み苦しむからこそ、自分の殻を破って新しい自分へと成長していきました。そして、「ありがとう」「ごめんなさい」「おはよう」「さようなら」の美しい四つの言葉をどれだけ使ったのでしょうか。この言葉の数だけ、人の愛を知り、優しさや思いやりを感じたはずです。美しい四つの言葉を沢山使って成長しました。経験に無駄なものはなく、全ての経験が自分の成長の証へとつながっていくものと思います。

みなさんの元気で何事に対しても一生懸命に取り組む姿が、私の誇りであり、教職員のやりがいでもありました。どうか、これからの進学先においても夢と希望を持ち、それを実現するために目標を立て、その目標に向かって地道な努力を怠らないうで、一瞬一瞬を大切にしてほしい・・・と願っています。肝心なのは、自分がどこに進んだのかではなく、大きな志や夢を持って行った先での何をするか、何をしているかということです。何のためにやるのか、何をなすべきか、何ができるのかを考え、人と関わり協力して、一步一步しっかりと歩いてほしい・・・と願っています。

卒業生の答辞や式歌は、心のこもった感動的なものとなり、三年生としての集大成を締めくくってくれました。この卒業式での先輩達の姿を見た後輩達は、次年度も輝かしい伝統として受け継いでくれると信じています。

後になりましたが、お忙しい中、御臨席いただきました御来賓、保護者の皆様方、有難うございました。そして、大宮中学校を御支援いただきました保護者の皆様と地域の皆様方に、感謝と御礼を申し上げます。本当に有難うございました。

京丹後市立大宮中学校 校長 井上 昌子



近い将来、今から10年、20年後、君達が社会で活躍する頃には、人が行っている仕事の47%は機械やコンピューターが行う時代になると言われています。わたしが中学生の頃には、今では当たり前になっている携帯電話や一日中あいているコンビニエンスストアもありませんでした。今の小学校5年生の子どもたちが就職する頃には65%、今ある職業は存在していないとも言われています。

そんな変化の激しい時代を生き抜く君達に一番必要な力、求められている力はなんでしょうか。それは、「人と関わる力」だとわたしは思います。いくら便利な機械ができて、その機械を使いこなすことができても、一番必要なのは人とのつながりをいかに大切にできるかということです。分からないことを尋ねる力、尋ねられたらそれに答える優しさ、困った時に「助けて」と言える力、そして、助けての言葉に反応して手を差し伸べる勇氣、そんなお互いが相手の立場を理解し、尊重し合いながら生きていく力が必要なのではないでしょうか。グローバル化が進み、人が国境を超え、物が国境を超えて行き来し、今とは違う環境になっても、みんなが笑顔で幸せに過ごすことのできる、そんな社会を創り上げてくれることを期待しています。卒業、おめでとう。

教頭 井上 達夫

前に向いて歩く力が弱くなった時、大宮中学校を訪ねてください。今と変わらない校舎やグラウンドが君達を優しく包んでくれると思います。

